

令和7年度 第2回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

1 開催日時

令和7年12月15日（月） 9：30 開会

2 開催場所

札幌市役所本庁舎 14階 入札室

3 出席者

(1) 委員

中川委員長、橋本委員、松村委員、山上委員

(2) 札幌市職員

税務・契約管理担当局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、病院局経営企画課長、他7名

4 次第

(1) 開会

(2) 報告事項

工事等発注状況について（令和7年度10月末）

(3) 審議事項

抽出工事等の決定・審議

(4) 閉会

5 審議概要

(1) 報告事項（工事等発注状況について）

【委員】 工事では、前年同月末と比較して件数が25件の減少、契約金額が約43億円の減少となっているが、このままの状態ですべて年度末まで続く見込みなのか。

【札幌市】 今年度の発注はほぼ終わっており、若干増加する可能性はあるが、ほぼ同様の状態で推移すると推測される。

(2) 審議事項（抽出工事等の決定・審議）

【委員】1件目について、当初告示では異なる区の路線を同時に施工箇所としていたが、これは交付金に関係しているのか。どちらかの区のみ施工となると交付金が出なくなるのか。

【札幌市】交付金の影響により同時に施工箇所としたというわけではなく、交付金の対象となる路線が含まれていたため、当初告示の工事名には交付金名称がついていたと思われる。

【委員】異なる区を組み合わせることで業者にメリットはあるのか。

【札幌市】区というよりは、難易度が高い工事と難易度が低い工事を組み合わせることで、難易度が高い工事だけではなく、低い工事も取っていただくという面において業者にはメリットがあると考えられる。

【委員】中央区の工事において難易度が高いというのは、道路融雪設備が入っていることによるものではなく、交通量の多さが主な要因ということか。

【札幌市】いろいろな要因が考えられるが、大きな要因は交通量の多さや地先の調整等だと推察される。

【委員】中央区の路線はその後どうなったのか。

【札幌市】再告示は行っておらず、翌年度に発注し直すと聞いている。

【委員】参加資格の中で、施工経験の有無はどのように判断しているのか。

【札幌市】コリンズという工事内容を登録するサイトにて、当該技術者が登録されているかを確認している。

【委員】成績重視型にすると担い手不足等の影響から入札に参加しづらいという認識でよいか。

【札幌市】成績重視型はそもそも優良な工事成績を収めた業者に限定して入札を行っており、それ以外の一般案件と比べると入札参加者数はかなり限定的になっているため、入札参加者が減っている。

【委員】今後も成績重視型では入札参加者が減っていくことが懸念されるか。

【札幌市】たしかに成績重視型は不調リスクがあるため、成績重視型を

設定するか否かについては、不調が発生した案件の実績を踏まえて判断することになると思われる。

【委員】当初告示と再度告示では、工事内容と成績重視型という2点を変更し落札に至ったが、札幌市としてはどちらが有効だったという感触を持っているのか。

【札幌市】明言は難しいが、工事内容の変更が大きいと推察される。

【委員】来年度、難易度が高い路線を再告示するにあたって、どういった工夫が必要になるのか。

【札幌市】ほかの路線と合わせて施工規模を大きくする等、受注した業者が施工しやすく、また利益も出しやすくなるような工夫が必要だと考えている。

【委員】業者に対して、入札に関するアンケートをとってはいないのか。

【札幌市】特定の入札に関するアンケートは実施していないが、不調という観点で業者に意見を伺う機会はある。

【委員】随意契約に移行する選択肢もあると思うが、そこまでにどういった手順を経る必要があるのか。

【札幌市】計3回の入札を行った結果、予定価格との乖離が10%程度の入札があった場合に随意契約に移行する場合がある。

【委員】2件目の工事について、人材確保・育成型の参加者が少ないというのは、点数を取れる会社があまりいないということなのか。

【札幌市】参加者が少ない理由の一つとしては、各会社において人材確保の取組をあまり進められないという状況があると推測している。

【委員】総合評価点の算出方法は除算式なのか。

【札幌市】除算式である。

【委員】令和7年度の人材確保・育成型の落札率が上昇している原因としてどのようなことが考えられるのか。

【札幌市】令和7年度に発注した人材確保・育成型3件のうち1件が落札率100%であったため、令和7年度の落札率が跳ね上がっている。

【委員】2件目の工事について、当初告示では2者の入札があり、2者とも予定価格を超過していたとのことだったが、どの程度超過してい

たのか。

【札幌市】 予定価格に対して、1 者が 104%、もう 1 者が 102%弱であった。

【委員】 契約工期の途中で単価が上がった際には契約金額の見直しはできるのか。

【札幌市】 基本的には当初の契約金額で施工してもらうが、資材価格の高騰等により一定の自己負担分を上回るほど単価が上がっていれば、インフレスライド等の制度により契約金額を増額することは可能。

【委員】 3 件目の工事について、管工種の A 等級又は B 等級として登録されている業者はどの程度いるのか。

【札幌市】 市内業者では、管工種の A 等級は 103 者、B 等級は 195 者となっている。

【委員】 3 件目の工事について、落札された際には 3 者の入札があったとのことだが、このうち A 等級は何者いるのか。

【札幌市】 落札業者以外の 2 者が A 等級である。

【委員】 落札業者は市内業者で、かつ B 等級の業者とのことだが、当初告示の入札には参加しなかったのか。

【札幌市】 していなかった。当初告示のタイミングでは、会社の受注状況や人のやりくりの関係で参加できなかったが、再告示ではそういった状況が改善されて入札参加につながった可能性が考えられる。

【委員】 予定価格が当初告示の 3,053 万円から、3,019 万円に減額されているが、これはどういう理由からか。

【札幌市】 原局や工事管理室で公表している直近の単価を用いた積算の見直しや、工種や仕様の変更によるものだと考えられる。

【委員】 4 件目の工事について、当初告示の入札参加者はどれくらいの金額で入札したのか。

【札幌市】 当初告示では計 3 回の入札を行い、3 回目の入札金額は予定価格に対して 161%ほどであった。

【委員】 4 件目の工事について、2 回目の不調から 3 回目の告示に際して条件を何も変えていなかったが、何か事情があったのか。

【札幌市】 工事の条件というより発注時期により不調となった可能性があったため、条件は変更せずに再告示を行った。

【委員】 1 回目の不調から 2 回目の告示に際して、施工箇所からはずしていたバルブ更新の部分はどうなったのか。

【札幌市】別に発注していた電気設備工事に含めて告示し落札に至った。

【委員】 難易度が高い工事を施工する場合、積算する過程で上積みをするような制度はあるのか。

【札幌市】 単価において難易度別にランク分けがあり、地域の特性に応じて単価の適用を変えることはある。また、市街地等の施工の場合には経費の割増補正を行う制度はある。

【委員】 不調件数は 4～6 月あたりにピークを迎えているが、これはそれぞれの企業がそれまでに案件を取っているためこの時期はスルーされているということなのか。

【札幌市】 お見込みのとおり。1～2 月の早期発注案件では多くの参加者がいるが、案件がある程度取れた会社は参加しなくなってくるため、3 月は参加者が少し減少したと考えられる。

【委員】 札幌市内で建設業に入職する数は減っているのか。

【札幌市】 具体的な数字は抑えていないが、建設業における人手不足は切実な状況であるため、業界と一体となって建設業の魅力アップ等、各種支援に努めているところ。

(3) 閉会

次回の抽出工事等の選定は、山上委員が行うことを決定し、閉会した。